

平成22年度補正予算の採択について

歯学部長 前田健康

この度、文部科学省より、平成22年度補正予算要求事項の採択について連絡がありました。

- 口腔保健医療に対応した国際イニシアチブ人材育成プログラム遂行に必要な設備
- 歯科用治療用ユニット

これらは歯学部関係から平成23年度概算要求事項として文部科学省に要求していたものですが、平成22年度補正予算で前倒し措置として予算化されました。

口腔保健医療に対応した国際イニシアチブ人材育成プログラム遂行に必要な設備として、口腔再生医療を実施する人材育成を行うために、大学院学生、若手歯科医師、歯科医療技術教育、口腔保健医療教育ならびに医療倫理観の醸成教育に使用する歯科用治療用ユニットならびに歯学部学生の臨床実習、研修医教育用歯科治療用ユニットで、これらは医歯学総合病院歯科総合診療部に設置されます。



歯科総合診療部のデンタルチェアが更新されました



平成22年度概算要求で認められました臨床教育用のデンタルチェア（歯科治療用の椅子）10台が平成22年12月に歯科総合診療部に設置されました。

本学歯学部は全国の歯学部および歯科大学の中でも極めて希少な診療参加・実践型の臨床実習を行っています。診療参加・実践型の臨床実習とは、歯学部最終学年の学生が実際の患者様を対象に担当医の一人として歯科医療を学ぶものです。しかしながら、臨床実習と臨床研修の場である歯科総合診療部に設置されているデンタルチェアはいずれも10年以上前に導入

歯科総合診療部教授 藤井規孝

されたものばかりであり、機器の更新が望まれていました。この度のデンタルチェアの導入により、本学歯学部における歯科医療の質的向上および臨床教育のさらなる充実が図られると思います。また、最新型のデンタルチェアは最先端の装備が搭載されているため、臨床実習にご協力下さる患者様に対し、快適な環境下で治療を受けていただくことができます。

なお、平成22年度補正予算でもデンタルチェアの設置が認められ、3月までに5台、さらに次年度中に23台の設置が予定されており、歯科総合診療部のデンタルチェアがすべて更新される予定となっています。



EOM-PLUS (GC社)



シグノ G40 (モリタ社)

平成23年度概算要求事項の内示について

歯学部長 前田 健康

この度、文部科学省より、歯学部が要求していた平成23年度概算要求事項について内示がありました。

○口腔保健医療に対応した国際イニシアチブ人材育成プログラム（新規：平成23～25年度）

本事業は、現代の国際口腔保健医療ニーズに対応した人材育成のために、国際口腔保健医療教育研究センターを設置し、既存の人的資源、ネットワークを有効に活用した人材育成開発・実践プログラムを開発・実施するものです。①の教育コースプログラムを準備し、〈プログラム1〉では本学が現有する口腔粘膜細胞培養技術をさらに応用・展開し、口腔粘膜前駆／幹細胞を用いて口腔外の創傷のケアを行うトランスレーショナルリサーチを行い、臨床治療方法の実用化に向けて、フェーズⅠあるいはⅡ臨床試験の申請まで目指すとともに、臨床試験コーディネーター／マネージャーを担える人材を育成します。また、〈プログラム2〉では、大学院学生を、WHOを中心とする国際ネットワークに参加させ、WHO口腔保健協力センターの活動の一環として、口腔環境の劣悪な諸国への本学教員派遣による国際口腔保健教育・セミナーの開催、口腔保健政策立案への支援、地域歯科保健医へのデータ収集技術移転、さらに、WHO口腔保健戦略の策定に必要な政策教育・研究を行うものです。

本事業の採択により、大学院レベルの口腔保健医療教育が図られ、また、歯科発の再生医療を展

開することにより国民の口腔保健に貢献するとともに、国際口腔保健推進体制の整備・拡充に寄与することが期待されます。

○歯科用治療用ユニット（新規）

医歯学総合病院歯科総合診療部では、歯学部学生の臨床実習、研修医教育にあたっていますが、歯科用治療用ユニットの老朽化が進み、その更新が望まれていました。平成22年度概算要求で更新された歯科用治療用ユニット10台に加え、この度の概算要求の採択により、歯科総合診療部の歯科用治療用ユニットすべてが更新されることとなりました（前掲：平成22年度補正予算により前倒しで予算措置）。

○歯学連携ネットワークによる口腔からQOL向上を目指す研究（継続）

本事業は全国11国立大学法人歯学部がこれまで確立してきたネットワーク機能を活用し、全国7国立大学法人歯学部（新潟大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学）が「口腔のQOL向上」をキーワードに協力連携を大学レベルで推進することで、得られた歯学研究成果を社会に還元し、国民の口腔機能の維持・回復することを目的としています。「口腔のQOL向上」を目指すために、口腔環境制御、摂食・嚥下機構、再生工学を研究の柱とし、口腔疾患の予防、診断、機能再建を含めた治療までの包括的な研究を進めるもので、事業開始後4年目を迎えるものです。

頭脳循環を活性化する若手研究者 海外派遣プログラムの採択について

歯学部長 前田健康

この度、日本学術振興会が募集していた「最先端研究開発戦略的強化費補助金（頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム）」に口腔生命福祉学専攻山崎和久教授が申請していた「最先端医歯学の融合による口腔一全身問題の解決を目

指す若手研究者養成プログラム」（平成22年度～24年度）が採択されました。生物系での採択率は29.8%でした。昨年度の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」の採択に続く快挙となりました。

